

にじのかけはし



川俣町
通級指導教室だより
NO. 3

『大切なマナー』を今のうちに

にじの学習の時間に、こんなことがありました。
担当と1人の子が話をしていたとき、別の子が2人の間をすうっと通っていったので

す。
「あれ？ 今、〇〇さんと先生は話してたんだけど、その間を通っていったね。
…ちょっとだけ嫌な気持ちがあったなあ。」

こう伝えると、その子はポカンとしたまま何が起きたのか、何がいけなかったのかがわからない様子でした。そこで、なぜそれがあまりよい行動ではないのか、どうしたらよかったのかを丁寧に説明して聞かせました。すると、納得した様子で
「今度、同じような場面があったら気を付けようね。」
と伝えるとにこっと笑ってうなずきました。

話をしている人どうしの間は通らない

という『マナー』を学習することができた場面でした。



日常生活の中で当たり前のように存在する『マナー』ですが、それを学校で教える教科はありません。しかし、『マナー』はまわりの人とよりよく関わりながら社会で生きていくための土台となる大切なものです。大人になって社会で生きていくためには必要なものであるといえます。

『マナー』の根本にあるのは、

「相手の立場に立って考えること」
「まわりの人やものへの思いやりの気持ちを忘れないこと」 です。

このことを理解しいつも心にとめて行動することができれば、『マナー』は自然に内面にしみこんでその人の「人柄」「その人らしさ」になっていきます。そして、何気ない動作やふとした言動の中に表れてきます。

「あ、この人はマナーが身に付いている人だな」
「〇〇さんは、すてきだな」
「なんて優しいんだろう」
「〇〇さんの心づかいはすばらしいなあ」



素直できちんとしていて、親しみやすさがあって、まわりへの気遣いができて…そんな「人柄」であれば、まわりの誰からも愛される存在となるでしょう。

『マナー』は、自然に身に付くこともあれば、教えることで身に付くこともあります。わたしたち大人が毎日の生活の中で「こうした方がすてきだよ。」と教えていくことが必要であると考えます。また、あわせて「なぜそうするのか？」を伝えることも大切です。

小学生のうちに身に付けさせたい『マナー』の例です。

「ぬいだくつはそろえる」(そろっていないくつを見つけたらそろえる)

- ・玄関、昇降口、トイレ(スリッパ)など

「自分の立てる音に気をつける」

- ・ドアを閉めるとき、歩くときの足音、物を扱うとき(片づけ・置く)、食事するときのそしゃく音 など

「言葉の使い分けをする」

- ・相手が友達なら「〇〇なの？」と言うところを、大人に対しては「〇〇ですか？」のように話す

「大きな声を出していい場所・いけない場所を区別する」

- ・図書館(図書室)、病院の待合室、大切な式に参加しているときなどは静かにする

「約束したこと・約束した時間を守る」

- ・遊ぶ約束、お互いに話し合っただけのこと、待ち合わせの時刻 など

「順番をきちんと守る」

- ・遊園地で並んでいるとき、電車やバスに乗るとき(降りる人が先・乗る人があと)、遊具をひとりじめしない

この他にも、たくさんの『マナー』があります。ふだんの生活の中で、ちょっと気になる言動に気づいた時が『マナー』について教えるチャンスです。そのチャンスを逃さずに、ちょっと立ち止まって教えてあげてください。

「□□ちゃんは今、△△していたけど、〇〇するとすてきだよ。
それはね、〜〜だからなの。この次から〇〇してみようね。」



「□□ちゃん、この前お母さんが教えた〇〇すること、できたね！えらいよ！」

「□□ちゃん、◎◎できるなんてすごいなあ！それはね、大人になってからも役に立つ大切なマナーの1つなんだよ。ずっと続けていくといいよ。」

いつか世の中に巣立つとき、わが子が『マナー』をきちんと身に付けることができたら、いればきっと、さみしさや不安よりも、期待や信頼感をもって大きくはばたく姿を見送ることができることと思います。